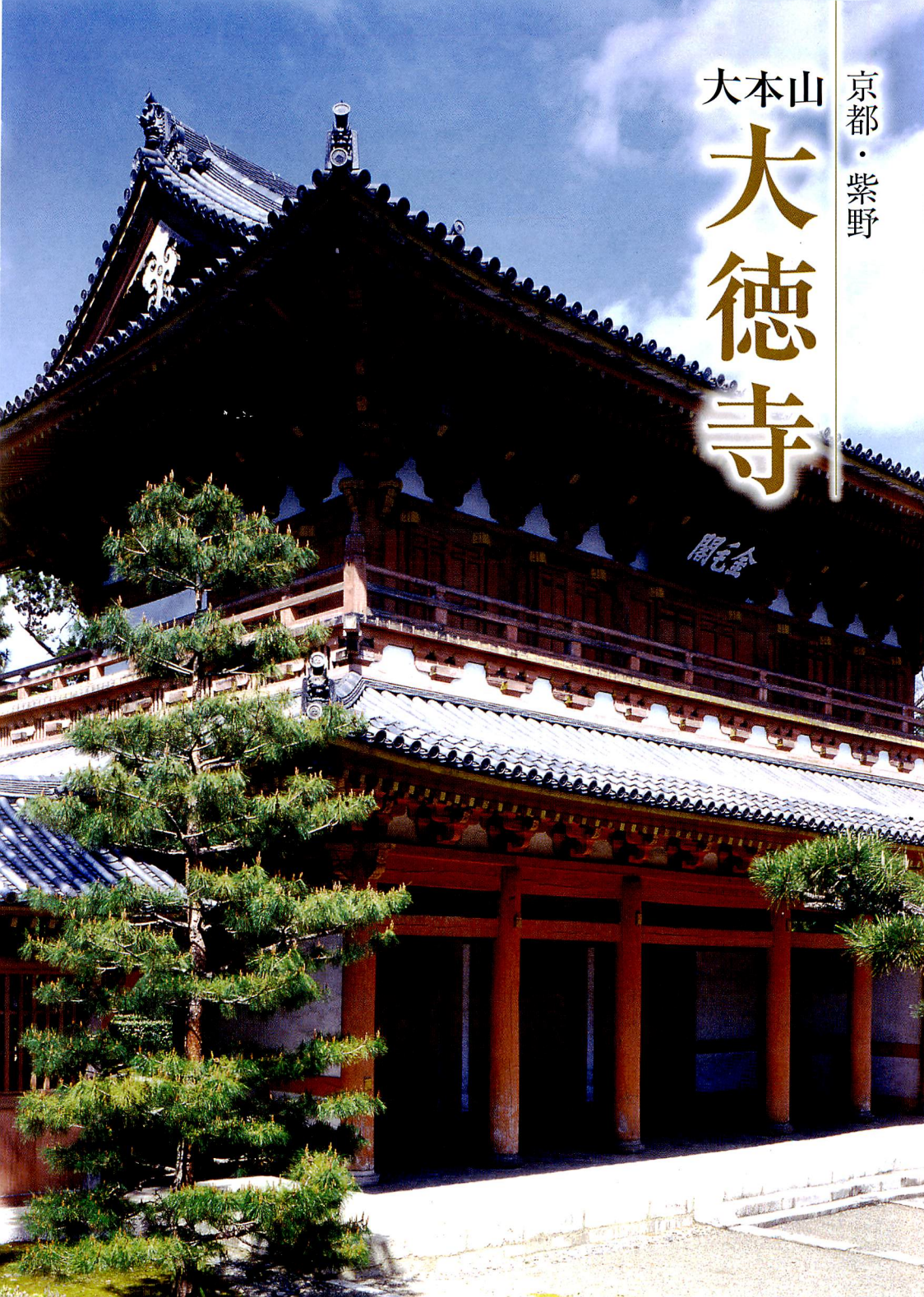
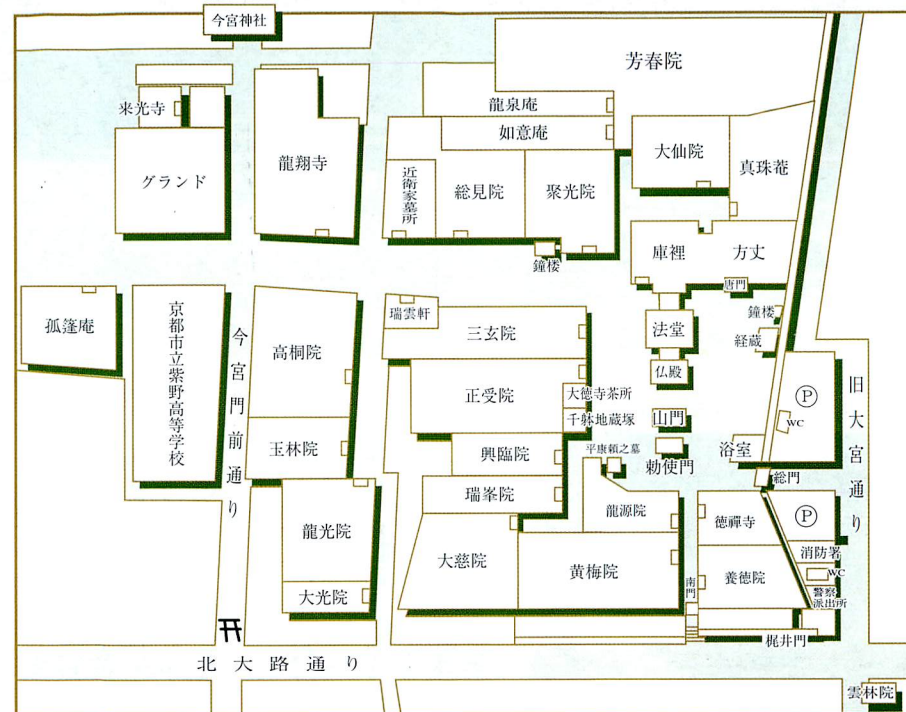




大本山 大徳寺

京都・紫野

[大徳寺山内図]



大本山 大徳寺

〒603-8231 京都市北区紫野大徳寺町53
TEL (075) 491-0019



方丈 (国宝)



前庭と唐門 (国宝)



法堂天井龍 (重要文化財)

開山大燈国師三百年遠諱の際、江月和尚の勸化により小田原城主稲葉正勝・正則父子の寄進によって再建された法堂は、当時の唐様の遺構として貴重な建物である。天井には狩野探幽斎筆による龍が踊る。

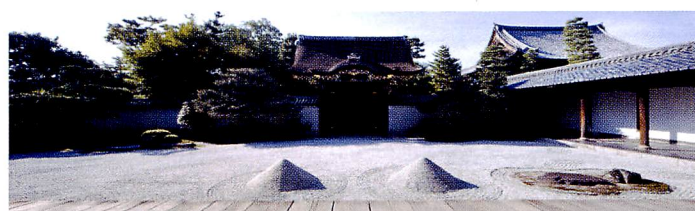
【法堂と天井龍】

重要文化財

三門・仏殿・法堂などの伽藍が中国風なのに対し、方丈は一山住持の修行生活の場となっているが、大徳寺の方丈は特別に大燈国師の塔所雲門庵を中心とする。京都の豪商後藤益勝の寄進により再建。襖絵八十四面は狩野探幽斎筆で重要文化財。また方丈前庭は天祐和尚、東庭は小堀遠州の作庭で、特別名勝庭園である。

【方丈】

国宝



方丈からみた前庭と唐門 (国宝)

【唐門】

国宝

方丈前庭にあるのが唐門。村上周防守が聚楽第の遺構を譲り受け、明治になって明智門があった今の場所に移建された。この唐門は彫刻や金具の豪華さ、豊富さに特徴があり、日光東照宮の日暮門の模型となっている。

【三門 (山門)】

重要文化財

金毛閣と呼ばれるこの三門は、大徳寺最古の建造物の一つ。応仁の乱で焼失後、大徳寺中興の祖一休禅師の参徒で連歌師宗長の寄進により一階を創建。六十年後一休によって、現在の二階二層門となった。楼上是広い一室で、釈迦如来座像や利休寄進による羅漢像が安置されている。天井龍は長谷川等伯筆。この楼上に利休木像を置いたことから秀吉の逆鱗に触れ、利休切腹の因といわれている。

大徳寺の沿革

鎌倉末期、宗峰妙超(大燈国師)が紫草の繁る洛北の野原に大徳という小庵を開創した。厳しい宗風をもった宗峰の学徳は次第に世に知られ、この小庵は、花園・後醍醐天皇の帰依をうけ勅願所となり、嘉暦元年(一三三六)の法堂完成と同時に現在の龍宝山大徳寺と命名された。